



発行責任者：歯学部長 宮崎 隆，編集責任者：広報委員長 佐藤裕二  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ：<http://www.showa-u.ac.jp>

## 巻頭言

口腔衛生学教室 向井美恵

### ～口腔保健・医療のこれから～

21世紀の最初の節目の年2005年の幕開けです。日本の現状で私達に関係するものでは、医療改革を始めとした社会保障改革、医学教育を含めた教育改革などの構造改革の真只中にあります。保健医療分野では、WHOが医療・福祉・行政等の分野間の「共通言語」の確立を目指して21世紀初頭(2001年5月)にICF(International Classification of Functioning, Disability and Health:生活機能、障害、健康の国際分類)を成立させました。ICFの新しい概念である「生活機能」とは、全般の生活状態を対象とした個々人が尊重される概念です。21世紀の保健・医療のあるべき姿を示唆しているものと思われま



す。これまでの保健医療は、疾患の治療とその器官の健康を守るための臨床、研究、教育が主でした。それらは、今後とも必要である事は間違いありませんが、生活の質を高めるための目的ではなく、過程と理解できます。今後目指すものは、WHOから提示されたICFに照らしながら、生活機能への口腔の保健医療サポートを通して積極的に地域保健医療サービス体制を整えながら、住民のQOL(生命の質、生活の質、人生の質)の向上に直接的に寄与する歯科医療の創造であろうと私は確信しています。目標をしっかりと見据えて歩み続けようではありませんか。

## 山本実佳先生が北米放射線学会で受賞

歯科放射線学教室 山本実佳先生が医学系で世界最大の学会の一つである北米放射線学会(シカゴ、11月28日～12月4日)「Certificate of Merit」を受賞されました。3年前の「Cum Laude」に続く受賞です。

演題「The Mylohyoid Muscle: Separation of Submandibular and Sublingual Spaces」は、顎舌骨筋には不連続部があり、舌下隙の病変が顎下隙へ進展する交通路になりうることを解剖学的・画像診断学的に示したものです。



## 大塚義顕先生人事院総裁賞受賞

口腔衛生学教室 向井美恵

独立行政法人国立病院機構千葉東病院歯科医長である大塚義顕先生の摂食指導グループが人事院総裁賞を先月(12月9日)に受賞されました。代表としてご夫婦で出席された大塚先生は、明治記念館での授賞式に続いて皇居で最初に皇后陛下に続いて天皇陛下と重症児の摂食について親しく懇談する時間が許されたとの事です。大塚先生は昭和大学歯学部同窓生で現在は口腔衛生学教室の兼任講師です。昭和大学発の障害児の歯科医療がこのような形で実を結び関係者ともども喜びたいと思います。



## 吉林大学口腔医学院との共同研究と国際交流

小児成育歯科学教室 伊田 博

2004年12月23日～26日、歯周病学教室の鈴木基之助教授と共に中国長春市の吉林大学口腔医学院(旧白求恩医科大学口腔医学院)にて、鈴木助教授の教育講演および、共同研究打ち合わせを行いました。吉林大学は創設1946年、国家教育部直轄の全国重点大学の一つです。校舎延べ面積250万平米、130の学部課程、学生数7万人と中国でもっとも大きな総合大学です。

我々は2001年から、吉林大学の魏秀峰先生(粘膜病科教授)、倪雪岩先生(小児歯科助教授)を中心とする先生方の協力を得て、長春市に在住する小児を対象に研究調査を行ってきており、今回は研究継続の確認とさらなる両大学の国際交流について話し合うなど親睦を深めることができました。



## D3 歯科病院見学

高齢者歯科学教室 積田正和

平成16年の11月30日から計6日間にわたって3年生の「歯科診療の基本実習」を行いました。

この実習は“歯科診療の概要と個々の診療の位置づけを理解した後に、歯科医師の実際の業務(診療, 患者対応, コデンタルスタッフとの連携)を理解し、今後の学習に対する意欲を高める”ことを一般目標としております。学生は歯科病院の各科から3科を見学し、様々な歯科医療に関する理解を深めていました。また、病院内を見学し、歯科病院の設備および歯科医師以外にも様々な職員が働いていることを学習しました。



## 選択実習について

選択実習小委員会委員長 佐藤裕二

5年次臨床実習を終了した学生を対象として、さらに高度ないし包括的な診療に参加して、広く歯科医療を理解することを目的として6年次に選択実習が開催されることになりました。なお、学内外・海外での研修も可能であり、そこでは視野の広い歯科医師を育成することを目的とします。

対称学年と期間(予定)

年度	対称	時期(指定期間以外は休暇)
17	旧加	8月1-20日:2週間(任意)
18	旧加	5月1日-6月24日:4週間(必修)
19	新加	4月9日-6月30日:8週間(必修)
20	新加	4月1日-6月22日:8週間(必修)

詳細につきましては、決まり次第お知らせします。

## 講師昇任

広報委員長 佐藤裕二

総合診療歯科	勝部直人	1月1日
齲蝕・歯内治療学	谷 千尋	2月1日
齲蝕・歯内治療学	成澤英明	2月1日

## D2 PBL実施

PBL委員会委員長 中村雅典

12月2, 9, 13, 16日とD2学生対象に“口腔の生態系”でPBLを行いました。

内容は二大口腔疾患であるう蝕と歯周病に関連する口腔内環境、特に唾液とプラークの重要性を学生が能動的に理解することにありました。また、PBLという学習方法が初めてであるため、PBLによる学習の重要性を理解することも目的でした。PBL委員会メンバーの努力によりシナリオを含む全体のパッケージが良くなったこともあり、昨年の同時期に比較し、学生の積極的な姿勢が伺えました。

13, 16両日はアデレード大学からDr. Tracey Winningをお迎えし、実際のPBLに参加していただきました。PBL終了後は我々のPBLの感想、シナリオ作成、そしてPBLパッケージの評価について講演いただきました。また、北海道医療大学、岩手医科大学、日本歯科大学新潟歯学部から先生をお迎えし、我々のPBLを見ていただき、ご意見を伺いました。

Dr. WinningからはPBL最後に学生に対し、この学習方法の彼ら自身の歯科医学・医療実践における重要性についてお話いただきました。学生の多くは完全には理解できなかったでしょうが、彼女の熱意は十分に伝わったと思います。

PBL委員会としても今回の経験を活かし、これからの正式実施に向けて一層努力するつもりです。



## 大学院Ⅱ期入試

大学院運営委員会委員長 立川 哲彦

平成17年2月19日(土)に従来の一般選抜の他に、社会人特別選抜が行われます。これは社会人(研修医を含む)が夜間、土曜日、夏休みに教育を受け、学位取得を目指すものです。語学試験も同時に行われます。願書提出期間は平成17年1月 6日~2月 10日です。詳細につきましては、教務部にお問い合わせください。

## 講演報告「医療人としての倫理観について」

高齢者歯科学教室 北川 昇

1月25日(火)午後5:30から歯科病院6階講堂において、教養部倫理学講座の田村京子助教授による「医療人としての倫理観について」と題した医療安全対策に関する講演会が開催されました。始めに倫理学入門とも言うべき倫理の定義を事実と倫理の違いから述べられ、次に医療従事者の倫理として、「善行の原則」と「自律尊重」についてのレクチャーがありました。さらに、具体的な事例を4例ほど挙げられて倫理的な対応について聴衆に問いかけられました。また、プライバシーに関する守秘義務や情報の保護に関しても4月から施行される個人情報保護法と絡めて解説されました。最後に“患者を傷つける一言集”，“ハラスメントを無くそう—マイノリティへの配慮—”という日常臨床で遭遇するケースについて話されました。

会場には180名程の教職員が集まり活発なディスカッションが行われました。司会の川和病院長より閉会の挨拶があり、講演は盛会裡に終了しました。



## 第5回アジア口腔顎顔面放射線学会議

歯科放射線科学教室 山本実佳

第5回アジア口腔顎顔面放射線学会議(The Fifth Asian Congress of Oral and Maxillofacial Radiology) がタイのバンコクにて12月15日~17日に開催されました。

12題のspecial lecture, 27題のOral presentation, 43題のposter presentationからなり、今回私は、oral presentationとしてわれわれの演題「association between osseous changes of the condyle and the temporomandibular joint fluid in osteoarthritis」を発表しました。

## 台湾の研修参加 歯科矯正学教室 中納治久

平成16年12月12日・16日、矯正科の診療に新しい診断・治療技術を取り入れるため、台湾台北市のChang Gung Memorial Hospital, Craniofacial Centerと普羅齒列矯正専科診所の研修に参加しました。

従来の矯正治療は、装置が見えるのは当たり前、治療期間が長期に渡るのも当然で、治療の内容によってはHead Gearや顎間ゴムなどの協力を得る必要がありました。当科では、これらの問題点を解決すべく様々な試みを開始していますが、患者の煩雑な協力を最低限に抑えても効率的に歯を移動でき、可能な限り治療期間を短縮する技術を考える必要があります。台湾では、治療期間短縮のため様々な手法が開発され、臨床応用されています。今回は、外科手術を応用した治療法を主に研修しましたが、これらの技術を習得し、昭和大学独自の臨床に反映させるために交流を継続したいと考えています。



## 生協洗足支店5周年

生活協同組合理事 片岡 有(歯科理工学教室)

昭和生活協同組合洗足支店が5周年を迎え、平成16年12月7日(火)に洗足支店前の学生ホールにて「5周年記念パーティー」が行われました。洗足支店は出店当時から宮崎京子さんを中心とするスタッフで、小さい店舗ながら食品や文具といった日用品をはじめ、学生へは教科書販売を行ってきました。

当日は、利用者を含め35人ほどが集まり、山元俊憲生協理事長の「大学に貢献できる生協を目指して生協職員一同頑張ります」という挨拶で始まり、生協理事からの近況報告がありました。次に川和歯科病院長や岡野教育委員長からお言葉を頂きました。その後、洗足支店立ち上げの発起人である増田先生(歯科麻酔科)の乾杯で歓談にうつりました。

教職員、学生、生協理事など交えて活発な意見交換が行われ、最後に洗足担当理事の上條竜太郎教授(口腔生化学)の閉会の辞で解散しました。



## 入試

大学入試センター試験が1月15日(土)、16日(日)に本学でも行われました。試験前日の天気予報で降雪が心配されましたが、当日は降雨に変わり、混乱もなくセンター入試が無事に実施されました。ご協力いた教職員の皆様、誠にありがとうございました。

さて、平成17年度の歯学部選抜I期試験、センター入試(大学入試センター試験利用入学試験)が1月29日(土)に行われます。選抜I期試験の試験科目は、面接・小論文、英語・数学・理科(物理・化学・生物から1科目選択)です。センター入試は、本学で面接と小論文を受験し、センター試験の成績(英語・数学・理科)とあわせて判定されます。また、今年度は初めて大阪でも入試会場を設けます。現在のところ、東京会場・大阪会場ともに順調に志願者が集まっております。多くの教職員の皆様にご協力をお願いいたしますが、よろしくご協力の程お願い申し上げます。

試験	募集	出願	試験	合格発表
推薦	25名	H16.11.1 -11.10	H16.11.14	H16.11.17
編入	若干名	H16.11.1 -11.10	H16.11.14	H16.11.17
センター	10名	H17.1.4 -1.22	H17.1.15.16 H17.1.29	H17.2.4
選抜I期	53名	H17.1.4 -1.22	H17.1.29	H17.1.31
選抜II期	8名	H17.2.14 -3.1	H17.3.6	H17.3.8

## 行事予定

広報委員長 佐藤裕二

- 2月19日(土) : 大学院Ⅱ期入学試験
- 2月21日(月) : 臨床研修医出願締切
- 2月21日(月) : 接遇セミナー・豊かな感性と接遇
- 2月25日(土) : 臨床研修医選考
- 3月4日(金) : 卒業式
- 3月6日(日) : 選抜Ⅱ期入学試験
- 3月10-11日 : CBT
- 3月16-17日 : 歯科医師国家試験
- 4月8日(金) : 入学式



## 診療統計(平成16年12月分)

区分	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16681	794.3	781.8	760.0
入院患者	499	16.1	16.8	18.4

## 歯学部広報委員会活動について

広報委員長 佐藤裕二

広報委員長を拝命致しまして1年半がたち、歯学部だより、歯科病院だよりの発行を行ってきました。広報委員の先生方のご協力により、編集も持ち回りで行って頂いており、だいぶ軌道に乗ってきたように思います。今後は、歯科病院の教職員や地域の先生方への情報発信の充実を検討しております。

カラー原稿なのですが、事情により印刷物は白黒です。これまでの「歯学部だより」もHPからカラーで見ることができますので、ぜひご覧ください。

歯学部のホームページ(HP)も歯科理工学教室の堀田先生のご尽力により、かなり充実してきました。また、各講座のHPもほとんどできあがりました。機会があればHPのご紹介をお願いします。今後は、英文HPの作成を行い国際的な情報発信を行えればと考えています。

歯科病院のHPも、診療科の再編成にともなって大幅に改訂致しました。AVセンターの鈴木さんのお力によるところが大です。お忙しいなか各診療科の説明の充実にご協力頂きました多くの先生方に感謝致します。さらに患者さんに分かりやすいHPにしたいと思います。

現在、歯学部の英文パンフレットの作成が佳境にさしかかっています。目的は、さらなる国際化を目指して、歯学部の活動内容・魅力を広報することです。対象としては、海外機関(出張の際に持参)、留学予定先、外国人留学希望者、昭和大学訪問外国人、海外共同研究希望者などを考えています。体裁はA4カラー16Pで、PDFファイルとして配布し、必要時に印刷して頂くように考えています。2月中には完成させたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

広報活動につきまして、建設的なご意見をお待ちしております。

## 編集後記 広報委員 樋場八裕(口腔微生物学教室)

年始のお忙しい中ご寄稿に快くご協力下さいました先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、幾つかの至らない点や失礼につきましては心からお詫び申し上げます。

新年の晴れやかなお気持ちのまま皆様がこの一年をお過ごしになられることが出来ます様、心からお祈り申し上げます。

